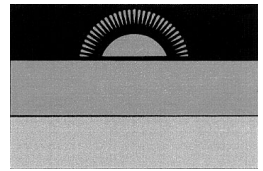


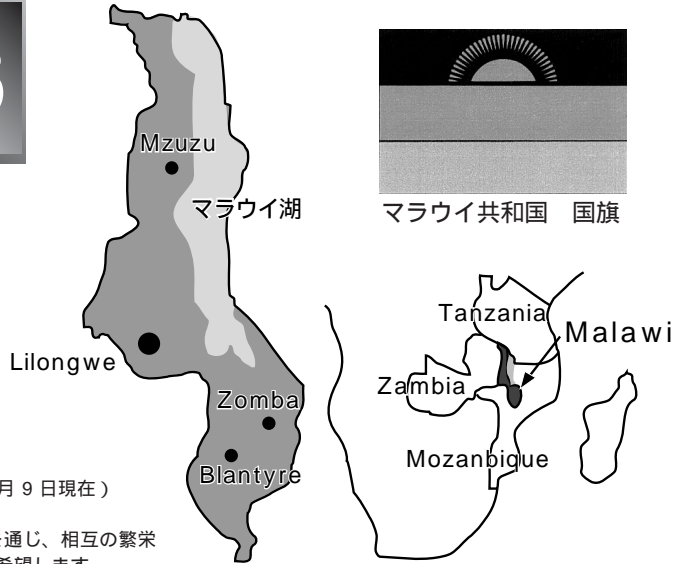
Kwacha(クワチャ)はチェワ語で「夜明け」を意味します。



マラウイ共和国 国旗

編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2921 Fax. 03-5798-4269
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1080 万人 (1999 年推計) 首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ
為替レート：US\$1 = MK 63.74 (9 月 9 日現在) MK 1 = 1.92963 円 (9 月 9 日現在)
【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】
日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。
会員数：276 人 (9 月 1 日現在)



第 19 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 19 回通常総会が 5 月 12 日 (土) 15:00 から、東京・広尾の青年海外協力隊 (JOCV) 広尾訓練研修センター大会議室で開かれた。

第 1 号議案では平成 12 年度事業報告と決算報告が行われた。活動は広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動の 4 分野が柱となっており、機関紙発行、国際協力フェスティバル参加、国情セミナー/シマを食べる会(大懇親会)開催、ウォームハートプロジェクト(在マラウイ JOCV 隊員支援活動) 島根県高田小学校からの寄付金使途など、平成 12 年度の活動とそれに伴う決算、会計監査結果が報告された。

第 2 号議案の平成 13 年度事業計画と予算案では、基本的に前年度と同様に広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくこと、また、(1) 次回のウォームハートプロジェクトの受付締切を 6 月 30 日とすること、(2) 高田小学校の児童から、追加の寄付金送付を受けたので、今後の活用方法について検討すること、が提案された。第 1・2 号議案は満場一致で承認された。

第 3 号議案の役員改選に関する件では、今年度より足田朋子氏 (H3-3, SE) を新たに理事とすることが承認された。

なお総会には、ウォームハートプロジェクトで当会から支援金を受けた大林幸徳 OB (H10-3, 自動車整備) と、高田小学校からの寄付金をカスング国立病院で松葉杖の購入に役立てた隅谷佐知子 OG (H10-3, 理学療法士, 前号で既報) が出席した。二人からはそれぞれのプロジェクト実施状況の詳細説明があり、数原会長をはじめとする出席者と質疑応答がなされ、その成果に対して出席者から感謝や感激の言葉が出た。

また、帰国して間もない草苺康子 OG (H9-3, 村落開発普及員) 石島和彦 OB (H9-3, 自動車整備) 田中かおり OG (H10-3, 地質調査) 石川美穂 OG (H9-3, 作業療法士) の 4 名も出席し、情報交換等を行い有意義な総会となった。

日本マラウイ協会役員一覧

名誉会長	卜部敬男	初代マラウイ大使
顧問	秋山忠正	日本マラウイ協会前会長
会長	数原孝憲	元青年海外協力隊事務局長
専務理事	貝塚光宗	青年海外協力協会理事
理事	瀧美堅持	東京国際大学教授
理事	池田憲彦	拓殖大学教授
理事	岡田啓一	日本シルバーボランティア専務理事
理事	河原昭男	アフリカ開発協会専務理事
理事	堀添勝身	ユースワーカー能力開発協会理事
理事	稲田武司	JOCV マラウイ事務所初代駐在員

- | | | |
|----|------|---------------|
| 理事 | 保坂 努 | 神奈川県議会議員 |
| 理事 | 小松健大 | 千葉県松戸市役所 |
| 理事 | 山村俊之 | 青年海外協力協会理事 |
| 理事 | 中小原淳 | 団建築設計事務所代表取締役 |
| 理事 | 藤村俊作 | 青森県総合社会教育センター |
| 理事 | 鶴田伸介 | 地域計画連合 |
| 理事 | 吉田 均 | 磯村豊水機工 |
| 理事 | 上田秀篤 | KDDI (株) |
| 理事 | 佐藤賢三 | シュロニガー・ジャパン |
| 理事 | 室伏春彦 | 警視庁 |
| 理事 | 進藤寿則 | クリエイトラボ代表 |
| 理事 | 河野 進 | KDDI (株) |
| 理事 | 中川 総 | 時正会 佐々総合病院 |
| 理事 | 足田朋子 | 関東学院大学国際センター |
| 理事 | 竹内明久 | 青年海外協力協会理事 |
| 監事 | 松平隆一 | |

南部アフリカ7ヶ国政府観光局イベント

6 月 2 日 (土) 東京・西新宿のアイランドウィングおよびアイランドホールにて、南部アフリカ・カルチャー・フェスティバルが行われた。これは、マラウイ、ジンバブウェ、ザンビア、モザンビーク、ボツワナ、タンザニア、南アフリカの南部アフリカ7ヶ国の政府観光局が同地に揃ったことを機に、近畿日本ツーリストクラブツーリズムの主催により南部アフリカの観光を促進するために開催されたもの。



チリマ参事官によるプレゼンテーション

アイランドホールでは、南部アフリカ・ミュージックショーを始め、旅行説明会、ジュエリーファッションショーが行われた。南アフリカから来日したシルビア&グループとBBモフラン&ジャンボの2組のバンドがミュージックショーで演奏したが、特に、歌姫シルビアの美声は、まさにソウルミュージックとも言うべき「魂の叫び」に似てパワフルで、「聞いていて鳥肌が立った」と言われるくらい聴衆を釘付けにした。

また、アイランドウィングでは、南部アフリカ写真コンテスト(谷島緑 JOCV マラウイ派遣 OG

(H10-2、村落開発普及員)の「ムランジェ山」の作品が入賞 (<http://www.club-t.com/club/0027/index.htm>)。民芸品展示の他、各国大使館員による南部アフリカ7ヶ国の文化、旅行情報、観光スポットなどの紹介が行なわれた。



マラウイ大使と大使館職員・家族らと

マラウイに関しては、駐日マラウイ大使館から、マンガラマ大使、チリマ参事官、マクムラ書記官や大使館員夫人らが参加し、民芸品の展示、マラウイの文化・観光等についてのプレゼンテーションを行った。日本マラウイ協会からは、吉田均 (52-1 後)、上田秀篤 (53-2 後)、河野進 (63-1)、松平隆一 (63-3) の各 JOCV マラウイ派遣 OB が参加し、当会発行の刊行物、切手等の販売、チョンベティーの提供を行い、来場者へマラウイの PR を行なった。また、最近帰国した JOCV マラウイ派遣 OG 数人も駆けつけた。

当日来られた世界各地の秘境を旅されている方々の間でも、まだまだマラウイは知られていないと感じられたが、マラウイ政府観光局の開設により徐々にマラウイの認知が高まっていくことを期待したい。

特別寄稿

マラウイの近況 JICA マラウイ事務所長 村上 博

JICA 事業の現状と今後の方向性

日本は過去何年にもわたり、対マラウイ二国間 ODA 実績で 1 ~ 3 位前後となっています。因みに 7 月時点では協力隊隊員数 75 名、専門家数 15 名、研修員受入れ人数年間 90 名程度、その他無償資金協力、開発調査等のプロジェクトも実施しており、ここ数年の実績では 40 ~ 60 億円/年となっています。

また、世界銀行の定義する貧困ライン 1 日 1 ドル未満が人口全体の約 60% を占めており、貧困軽減のためには GDP 年間成長率が 6% 以上必要なところ、2000 年実績で 3% にも届いておりません。すなわち、貧困の度合いはむしろ進んでいると言えます。現在進めている IMF、世銀主導によるマラウイ政府の貧困削減戦略も、現実的にはドナー

側にとっても未知の世界であり、今後もマラウイにとっては険しい道が控えていることは確実です。明るい材料としては、政治的に比較的安定しており、民族間抗争の要素もなく、かつ、政府も様々な欠陥を抱えながらも、全体的には大いに努力を重ねていることです。

このような背景の下、わが JICA 事務所でも今後の対マラウイ協力において、いわゆる未知の世界に入っており、どのように対処すればいいのか大いに頭を悩ませているところです。マラウイ側の政策は、極めて限られたリソースを前提として、貧困削減に焦点を当てた重点項目を定め、そのうちの緊急性の高いものを中心に支出することにあります。従いまして、我々ドナー側も如何にマラウイ側の政策に整合性を持たせつつ、自国の政策、リソースの制約の下で効果的な協力をを行うかの知恵を絞る必要があります。

知恵を絞ると言っても、言うは易し、行うは難しであり、情報収集、分析の体制の強化なしでは絵に描いた餅同然です。しかも、ODA 予算削減の折、マンパワーの強化にも限度があり、現在私どもは思い切った協力の範囲を絞らざるを得ないと考えています。

具体的には、マラウイ側の政策、過去の協力実績、ならびに我が方の可能であるリソースを踏まえ、小規模灌漑、園芸作物等の農業、淡水養殖、地方給水、基礎教育、保険・医療、マクロ経済の改善に不可欠なインフラ整備に焦点を絞り、無償資金協力、開発調査、専門家派遣、協力隊員、研修員等を可能なものから複合的に活用し、複数年のプログラムとして考えて行こうとしています。

また、日本の協力の特徴として、専門家・協力隊員等が相手国の人と共に働きながら適正技術を共に創造していることがあり、協力にあたっての条件付けも緩やかです。相手国からすれば、日本は物事を押し付けてこない国であり、日本人は共に働き、視線の高さが同じ国民であるとして好意的に映っているようです。これらの特徴は今後も生かして行かなければと思っています。

日本とマラウイの関係強化に向けて

昨年より、JICA 事務所広報担当の頑張りもあり、現地メディアに大いに取り上げられており、日本についての知名度、理解度は増大しています。一方、マラウイに対する日本での知名度、関心度は低く、日本の NGO もメキシコ人が所長の笹川グローバル 2000 のみです。我々としましてはメディアへの働きかけの強化等、今後一層の努力が必要だと考えております。また、同じ問題意識をお持ちの日本マラウイ協会との連携を更に強化していかなければとも考えておりますので、よろしくお願ひします。

レポート

マラウイ ウォームハートプロジェクト

これまでの経緯

日本マラウイ協会では、マラウイ国内の地域発展と改善のために必要な草の根レベルでの協力活動で、資金不足であるが協力隊員の隊員支援経費を活用できないものを支援することを目的に、隊員からの要請に基づいて直接的な資金援助を行うプロジェクトを立ち上げた。原資は当協会設立以来 18 年余りにわたり事業収入金の一部を別段積み立て続けた 100 万円である。

この企画は現役派遣隊員と任地のマラウイアンに何らかの支援ができないものかという観点から始まり、当協会創立初期から温められていた。その間、(仮称)100 万円プロジェクトと呼び、様々な運用案が提案された。例えば、奨学金として役立てられないか、その場合、どのように現地で運営出来るか等々。

1999 年 3 月定例会より、協力隊を育てる会の「小さなハート・プロジェクト」と外務省の「草の

根無償資金協力」を参考にして本格的に検討を重ねた結果、同年 11 月定例会で名称を「マラウイウォームハートプロジェクト」とすることに決定。一方、申請受付方法等の見直しを数々加え、JOCV 事務局に対してはプロジェクト実施にかかる便宜供与を依頼し、了解を得た。1 件当たりの申請上限金額は 30 万円、案件募集は JICA マラウイ事務所を経由して行うこととした。こうして 2000 年 11 月、プロジェクトは正式に立ち上がった。

2000 年 11 月から 12 月上旬まで第 1 回案件を募集し、12 月 20 日の定例会にて合議審査を行った結果、協会関係役員会として平成 10 年度 3 次隊 大林幸徳隊員 (自動車整備) から応募の「チテゼ プライマリスクール リノベーション プロジェクト (学校校舎修復・改善)」を適正案件と認め、数原会長へ決裁を上申した。申請金額は 273,535 円。12 月 27 日に数原会長の決裁を得て送金した。

プロジェクトは 2001 年 4 月 3 日に完成記念式典を挙行し、4 月 9 日の Daily Time に記事が掲載された。

プロジェクト申請概要

申請者は、首都リロングウェの西約 16km にあるチテゼ農業試験場の自動車整備工場にて自動車整備技術を伝えている。申請者は本来業務の他に余暇を利用して自動車整備クラブを始め、試験場の敷地内にあるチテゼプライマリスクールの教室を使って講習を行っているが、学校全体の校舎に問題があり、学校授業自体にも支障をきたしていることから支援を考えた。問題点は次のとおり。

同スクールには、試験場とその周辺 22 の村から集まる 1500 人の生徒が通っている。教室は全部で 20 室あるが、いずれも窓は壁に四角の穴が空いた枠だけの状態でドアもない。雨風が吹き抜ける状態であり、雨漏りもある劣悪な環境で、生徒は地面に座り授業を受けている。

そこで、授業に必要な最低限度の環境を作ることとし、

- (1) ブリースブロック (吹き抜きのコンクリートブロック) を窓の位置に取り付ける
- (2) ドアを設置し鍵を付ける
- (3) 雨漏りを修理する

ために必要な資金 273,535 円相当を申請する。なお、工事の実施は各村の父兄、学校職員、生徒が行ない、工期は 2001 年 1 月上旬から約 2 ヶ月である。



プロジェクト実施前の校舎

プロジェクト終了報告

H10-3 自動車整備 大林幸徳

1. 概要

2001 年 1 月 8 日、予定より 4 日遅れて学校修復作業を開始した。計画どおり父兄が集まり、学校教師も進んで作業を手伝い良きスタートがきれた。予定より遅れたのは、道具の準備がはかどらなかったためである。PTA 委員長を中心に作業は進んだが、雨期という関係から病気が流行り、あちらこちらの村で葬式が絶えなかった。そのため、父兄の集まりが悪く再三会合を開き話した。

計画の半ば、2 月の時点では計画より数週間早く作業を終了できるほどであったが、ちょうどその頃から、このプロジェクトに刺激を受けた父兄達が自ら資金を集め分校の開設を始め、また足止めを食らった。本来、1 つの村当たり 1 教室の作業という予定を変更し、分校に係のない村人に 2 度作業に当たってもらい、予定より 2 週間遅れで 3 月 16 日にプロジェクトを終了した。また、

PTA 委員長の力で材料を安く仕入れることができ、残りの金額と父兄からの募金、イギリスの教育プロジェクトからの助けなどで壁をペイントしたりと、仕上がりがより立派なものとなった。

2. 効果測定

日本人の目から見て、決して美しいとは言えない仕上がりがだが、胸を張り、誇らしげに自慢する教師や父兄を見ると、結果は上々であると言える。道を歩いていると、今まで通り過ぎるだけだった子供達が、「ありがとう」と声をかけることから彼らの喜びが伺える。また、プロジェクトに刺激され分校開設を始めたこと、これを機に壁の修復にかかったことなども効果の一部に加えてよいと言える。ただ、どうしても雨の日には教室の中が暗くなり、生徒達の視力に影響が出ないかと不安も残った。



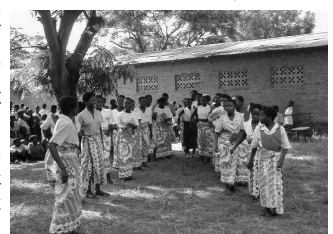
プロジェクト完成後の校舎

3. 反省点

彼ら自身の手により修復工事を行ってらおうという思いから自分の仕事を金銭管理と助言のみとし、工事に関してほとんど手を出さずに計画を進めた。その結果、彼らそれぞれの思いからアイロンシートの購入を止め、もっと壁を綺麗にしよう、もっと他に金を使おう、などという意見が出て予算の計画が狂い頭を悩ませたが、PTA 委員長の助けが大きく、多く持った会合のなかで無事解決した。また、自分の少ない語学力のせいで意見の食い違いが多くみられた。多くの人を指揮することの難しさを改めて感じた。

4. 保守整備上の課題

1950 年に開校して以来、大きな修復工事がされてこなかったことから、これから先しばらくはこの学校に予算が下りないことが考えられる。それを考慮しての工事だったが、世の中果てないものは存在しない。彼らの考えでは、今後いろいろなイベントにこの学校を利用してもらい、そこから資金を集めたいと言うが、あともう 50 年保ってもらえたら幸いです。



完成記念式典でダンスをする生徒達

5. 最後に

前にも記しましたが、このプロジェクトを進行したのは自分ではなく現地の人達です。2 週間ほど計画より遅れは出ましたが、それは、新たに壁の修復、床の修復などを加えたことも関係します。実際、予定どおりに全てを終えていたなら、それは 100% 以上の仕事になったと思います。PTA 委員長を始め多くの人々のプロジェクトへの熱い思いをたたえたいと思います。これからも、是非、現地の人々のためご支援いただることをお願いします。このプロジェクトで良い経験を積めたこと、また、家族同様のチテゼ住民の喜びも含め感謝します。



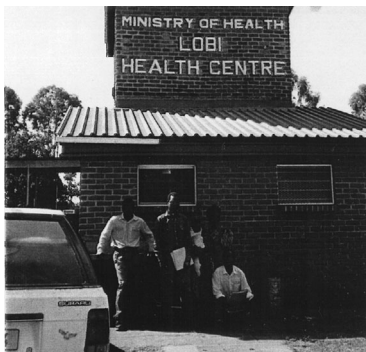
完成記念式典で大林隊員と生徒達

高田小学校とマラウイの架け橋に(2)

前号で、島根県仁多町立高田小学校の児童からの寄付金約8万円を2名の医療関係隊員を通じてマラウイの医療改善に活用したことをお伝えし、そのうちの一人である隅谷佐知子OG(H10-3、理学療法士)のリポートを紹介した。今回はもう一人の松浦綾子OG(H10-2、保健婦)のリポートを紹介する。

高田小学校からの寄付を巡って
H10-2 保健婦 松浦綾子

はじめまして。マラウイのロビヘルスセンターで活動し、昨年12月に帰国、今に社会復帰リハビリ中の松浦綾子です。帰国ちょっと前に、「日本の小学校児童がピンや缶を集めた寄付金です。ぜひマラウイの医療などに役立てて欲しい」とのマラウイ事務所からの無線を聞きました。ナイナイづくしの村の末端の末端のヘルスセンターでは、「これはありがたい!」という思いで、すぐお願いしました。しかも小学校の児童が「マラウイを知ってくれているなんて!」と感動しつつ。



ロビヘルスセンター

ヘルスセンターでは、針も注射器の筒も使い回し。消毒の脱脂綿もアルコールもない。妊婦さんの体重を測定する体重計も壊れている。生まれたばかりの赤ちゃんを洗う桶もない。毎回つらい思いをしている車がないこと。すぐ病院に送ってあげれば何とかなる人でも、牛車で運ぶとなると命は消えてしまう。ああ~、などと考えると、このお話を我がスタッフにしました。なによりも日本の小学生達自身の熱い思いを話すと、みんな「おお~!」という感動でした。そこで、緊急スタッフミーティング。いろんな思いが溢れ出てきました。

診療部門からは、「薬、特に抗生物質!」「もちろんです。ちゃんと動くもの!」(ヘルスセンターの体重計は、日によってごきげん斜めだったりする。)

村巡回・地域保健部門(仮称)からは、「自転車、1人1台!」「長靴1人に1つ!」「雨季のどろどろの巡回訪問時、靴が役にたたなくなるくらい雨だから。」「針」「注射器」「消毒薬」「薬!」など。ここでも薬。「昔は村の巡回相談で、薬をあげることができたんだ~」と。今は巡回では予算が配分されておらず、薬は配られていない。「バケツとスプーン」村で掘った井戸の消毒に使用するもの。「煮沸用の圧力ナベ」注射針や筒の消毒に使うもの。

妊産婦検診部門では、「赤ちゃんの体を洗うベビーバス」「よく切れるはさみ。へその緒用(ヘルスセンターのはあまり切れない。)」。「出産の時に使う長いゴム手袋。あ、エプロンも!」「妊婦さんのおなか周りを測るメジャー」

村の産婆さんにも聞いてみる。「はさみも、ゴム手袋も、エプロンも。消毒するような入れ物も欲しい。夜の出産が多いから、パラフィンが欲しい。ここは電気がない。ろうそくだと、風が吹くと火が消えてしまうのです。

たくさん溢れる思いの中、これを整理。代用品や病院への依頼で何とかできるものは、何とかして、ケンケンガクガクって最終的に値段範囲内でリストアップは進んでゆくのでした。

まず各部門から優先順位が高いものを、と検討。何度も検討。なかなか決まらない。でもスタッフみんなで考えるいい機会となったかな。

最終的に、みんなでリストアップしたのは、診療部門からは体重計。巡回部門からは予防接種にきた子供やお母さん用の待合イス(いつもは地面にころがっているから)ワクチンや注射器などの保管に使う机。また消毒用や水の測量につかうバケツとスプーン、タオル。妊産婦部門からは、赤ちゃんのベビーバスとハサミ、メジャー。村の産婆さんは、ハサミ。ゴム手袋。

本当に欲しいものは、マラウイの国自体になかったりする。買うにあたり、首都にもなく、いろんな病院を回ったり(ありがたく、寄贈品をゲットしたり)いろんな業者にあたりたり、南部の都市まで行ったりと...。でも結局、「今マラウイにはない、オランダから取り寄せるとなると、半年~3年はかかる。」なんて言われてしまう。口がぼっかり開いてしまう。

普段お金もないから買えないけれど、お金があっても買えない悲しい現実。やっぱり、あるものでいかに代用するか、清潔や安全面から見ると「ウーン」と唸ってしまうことでも、最小限のリスクになるように活用していく。関わる現地スタッフの意識やいろんな知恵の発掘を手助けしていくことが一番大切だったりするのかなあ、などと思った帰国前のバタバタの貴重な時間でした。

最後になりますが、マラウイへの暖かい気持ちをお届けくださった高田小学校の皆さんと、その種をまいて育ててくださったマラウイOB/OGの方に心から感謝しています。ここまで読んでいただいてZikomoです。それでは、また。Tidzawona na. (*^_^*)

投稿

国情セミナーとシマを
食べる会に参加して
H9-2 獣医師 江上三喜子

7月7日(土) 広尾訓練訓練研修センターでマラウイ協会主催「マラウイ国情セミナーとシマを食べる会」があった。昨年12月に3年間の任期を終え、今年1月に帰国してマラウイ生活の余韻の覚めやらぬうちに3月から5月にかけて、またマラウイを訪れていた私は、シマを食べることが目的で参加した。

会場である食堂のテーブルの上には、たくさんのディオが並んでいた。そこに今できたのシマが運ばれてきた。それらご馳走を目の前に、がつついてはいかんと自制し、シマを1枚、鶏もも肉1本とトマト煮を皿に載せた。マラウイで食べていた時と同じく右手でシマを握り、ディオをちよちよんとつけて食べていると、ふっと周囲の景色はどこかに消され、Dedza RTCでのランチタイムが頭に浮かんできたりした。



マラウイ大使を囲んで記念撮影

数人の懐かしい顔との会話もよそに食事に精を出していた私に、隊員OB・OGの方々が声を掛けてくださった。実はあまり知った顔がなかったこともあり所在無かったのだが、おかげで、それからはとても楽しい時間が過ごせた。時期は違えどもマラウイで隊員として活動していたという共通

点があって、以前からお互いを知っていたような錯覚に陥りながら会話は弾んだ。話を聞いていると、政権の異なる時代にマラウイに滞在していたという違いはあっても、マラウイに住む人間の本質は変わっていないようだ。

活動中に亡くなった隊員の遺稿写真集が会場に置かれていたのだが、その写真集にあるマラウイの風景は15年以上前のものであるにも関わらず、現在のマラウイの風景と全く変わりのないのに驚いた。本当にマラウイの変化はPangono Pangonoのようだ。なんだかうれしい。その写真集を1部頂いた。15年前に作られたその写真集は私にとってもマラウイの思い出の1冊となった。活動半ばで惜しくも亡くなった方々も同じ風景を見ていたと思うと、改めて生かされていることのありがたさを感じる。

今回OB・OGの方々とお話しでき、皆さんマラウイで過ごした数年をよい思い出として心に留め、マラウイに想いを馳せていると感じた。

はじめはシマを食べたいという目的のために参加した会であったが、マラウイという国に関わった人達のマラウイへの想いを深く感じ、自分もその1人であることを実感することになった心に残る1日となった。

この模様は雑誌「Lightning」の取材を受け、同誌9月号106ページに写真入りで掲載された。

国情セミナー概要

講師：マラウイ国大使

Mr. Bright S.M. Mangulama

政治

1995年に採択されたマラウイの現憲法では、大統領の任期は1期を5年として最大2期10年までとなっている。最近、それを3期も可能とするように憲法を改定しようとする動きがある。憲法改定には国会で3分の2以上の賛成が必要であり、今後の動向が注目されている。(現Muluzi大統領は2期目)



国情セミナーの様子

マラウイ政府の政策

- ・引き続き貧困緩和が最も重要な政策であるが、教育にも力を入れている。1994年の複数政党制導入のときに「小学校教育の無料化」を打ち出し、低学年生の数を2倍に増やすことを目的とした。しかし、学校施設や教師の数が足りず、政府の大きな挑戦事項となっている。
- ・医療、社会福祉にも力を入れている。しかし、十分な医師、看護婦、薬がない状態。特に南部アフリカではエイズが大きな問題となっており、マラウイも例外ではない。
- ・貧困をなくすため農業は重要と位置づけている。雨が降らないと農業もできないので灌漑施設の整備を行っている。この点、日本政府からの長く続いている本プロジェクトへの協力に感謝している。また、生産した作物もマーケティング機能がないと流通しないので、その整備にも力を入れている。
- ・農業作物にはタバコ、綿、砂糖黍などがあるが、タバコが外貨収入のトップである。しかし、タバコは世界的な嫌煙運動のため売れなくなってきており、生産作物の転換政策が必要と認識している。

経済

・ムランジェにボーキサイト(アルミニウムの原料)鉱石の埋蔵があるらしく、ロンドンの会社とのジョイントベンチャーで調査を行っている。未来のマラウイに役立つものと期待されているが、現在のところ、実際の採掘を正当化する十分な理由が見つかからない模様。

・マラウイ湖は重要な観光資源であり、国の経済に影響を与えるので活用していきたい。

・日本政府の運輸、農業セクターへの借款から供与への変更は、マラウイの経済状況緩和に大変役立っており、感謝している。

社会

・今年の初め頃、南部マラウイを中心に各地で洪水があり、橋、家、財産が流されるなどし、約 50 万人が何らかの形で影響を受けた。援助してくれた NGO や外国政府に深く感謝するが、精神的な面を含め、再建には長い時間が必要である。

・日本人が巻き込まれた事件が起きた。モザンビーク難民が 100 万人いた時代に代わって、ルワンダ、コンゴなどから銃とともに難民が流入しており、これが治安を悪くしていると見られる。マラウイ政府は治安の維持に努めており、ビデオカメラや多くのお金を持たないで、目をつけられないようにすれば安全であり、どうか恐れずにマラウイに来てほしい。

日本との関係

日本の青年海外協力隊には 1971 年から来ていただいている。本当はボランティアなしでも自立していけるのが望ましい。当初は数年でなくなると思われていたが、今に続いてるのは、まだまだマラウイが必要としている証拠だ。各分野で技術協力・移転に努力いただいております。日本とマラウイの架け橋としての役割も大きく、今後とも活動に期待している。

マラウイで、青年海外協力隊員が子供たちのために始めた剣道クラブが今年で 10 年目を迎え、全日本剣道連盟は 6 月上旬、アフリカ大陸に初めて指導員四名(渡邊哲也 剣道教士 8 段、伊藤知治 剣道教士 8 段、居合道教士 7 段、大保木輝雄 剣道教士 7 段 全剣連普及委員、神崎 浩 剣道教士 7 段)を派遣、同国の青年 2 人が見事に初段に認定された。

剣道クラブを開いたのは、1992 年に青年海外協力隊で栄養士として同国に派遣されていた中川総さん(36)、剣道 3 段の中川さんが空き地で素振りをしていた時、近所の子供から教えてほしいと頼まれたのがきっかけだった。

「剣道をけんかに利用してはいけない」と言い聞かせ、モップの柄を竹刀代わりにけいこを開始。技術だけでなく、礼儀など剣道の精神も厳しく教えた。日本からの援助などで道具は少しずつそろい、中川さんの帰国後は後任の隊員らがクラブの運営を引き継ぎ、今では子供から大人まで約 30 人がけいこに汗を流している。



日本からの指導員による指導の様子

昨年 9 月に同国を再訪した中川さんは「子供たちがやめずによく続けてくれた」と感謝しながらも、「剣道の形が崩れ、自己流になりつつある。正しい指導を受けさせ、マラウイ人の指導者を育てることが必要」と痛感し全剣連に指導員の派遣を依頼した。

全剣連は 6 月上旬、アフリカへ初めての巡回指導員を派遣。同国で 4 日間、講習会と昇級試験を実施したところ、クラブ発足時からけいこを続けてきた 2 人の青年が初段に合格。マラウイ人初の有段者が

誕生したほか、受験者全員が 1 級から 5 級を取得した。

同国政府は「心を重んじる剣道はマラウイの青少年教育にも役立つ」として、剣道を教える青年海外協力隊員の派遣を要請することも検討しているという。

《日本マラウイ協会》 平成 13 年 3 月～平成 13 年 7 月 活動内容

マラウイウォームハートプロジェクト

(第 2 面の記事参照)

【4 月】

JICA マラウイ事務所から、大林隊員実施のプロジェクトの報告書、写真、新聞記事が 4 月中旬、当会に届いた。現地では、4 月 3 日(火)に報道関係者を招いてプロジェクト完成記念式典が実施された。

政府観光局イベントへの対応

(第 1 面の記事参照)

【6 月】

南部アフリカ 7 ヶ国政府観光局イベントが 2 日(土)、東京・西新宿のアイランドウイングで近畿日本ツーリストクラブツーリズム主催で開催された。当会はマラウイ大使館からの協力要請を受け、当会発行の旅行ガイドブック、チェフ語辞典をはじめ、マラウイの切手、ポストカードセット等を販売した。また、大使館提供の紅茶を来場のお客様に飲んでいただき、マラウイの PR をした。

「マラウイの夕べ」への対応**【7 月】**

28 日(土)、東京・西新宿のアイランドウイングで近畿日本ツーリストクラブツーリズムが「マラウイの夕べ」という催し物を行なった。大使館からは大使が約 40 人のお客様に前にマラウイの観光 PR を行い、当会は、当会発行の出版物や切手等を販売を行った。

マラウイに剣道有段者誕生 H3-2 写真 有島 康

日本マラウイ協会情報

「国際協力フェスティバル 2001」出展協力者募集

毎年恒例の「国際協力フェスティバル」が来る 10 月 6・7 日(土・日)に東京・日比谷公園で開催されます。日本マラウイ協会は今年もマンガジ(揚げパン)とチョンペティーの販売、民芸品の販売などを計画しています。当日、スタッフとしてお手伝いいただける方は、右記の電話・FAX・E-Mail へご連絡をお願いします。

日本マラウイ協会の刊行物

チェフ語辞典 統合改訂版(2000 年 7 月発行)
B5 版 186 ページ 1 部 1,500 円(送料 310 円)

マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版(97 年 7 月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円(送料 310 円)

国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版(94 年 7 月発行)A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円(送料 310 円)

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ず E-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、右記当協会宛へご連絡なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第 3 水曜日 18:30～に、東京都内(通常は JOCV 広尾訓練研修センター 1F 研修室 2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mail で入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000 円 +3,000 円 =4,000 円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です)

〒 150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

電話/FAX 番号が変更となっています。ご注意ください。

三和銀行 東恵比寿支店

普通口座 255739 口座名義人 日本マラウイ協会 代表者 卜部敏男

(ニホンマラウイキョウカイ ダイヒョウシャ ウラベトシオ)

郵便振替 00190-7-13125 加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。